

8月

お盆供養法要（お施餓鬼）

日時 八月十六日（木）

法要開始／午前十時・十一時半

／午後 一時半・二時半

供養料 一霊につき 三千円、五千円、二万円、二万円
毎年お盆は先祖を供養する一番大切な行事です。お盆供養祭は、年に一度行なわれる精霊の総供養です。本堂にて大勢の僧侶が集会し法要を行った後、個別に各家の先祖ならびに水子供養のお塔婆を讀上げ供養いたします。事前に「ご予約頂きますと、当日までにお塔婆を用意させて頂きますので、当日待ち時間少なくご案内できます。

当日参拝できない方は、郵便・f a x・メールにても供養の受付を行います。



9月

お彼岸法要と風の塚供養祭

日時 九月二十三日（日・秋分の日）

法要開始／午前十時三十分より

その後【風の塚】にて供養祭

供養料 志納

お彼岸にあたり、当山永代過去帳及び各家の先祖並びに水子の供養を行います。

当日参拝できない方は、郵便・f a x・メールでも受付致します。



11月

お稚児さん募集（毘沙門天まつり）

〔稚児加持行列〕

日時 十一月三日（土・文化の日）

午前十一時より

申込み 申込書（法福寺）ご記入の上、参加費を添えてお申し込み下さい。
参加費 五千円（衣装代・祈祷料込）
締切り 十月二十五日

【毘沙門天まつり】にちなみ稚児行列を行います。子供達の健やかな成長を願い毘沙門天に祈願致します。本堂内ではお子様一人一人のお名前を讀み上げお加持致します。お誘い合わせて是非ご参加下さい。



8月

新才能面展 〈女面の世界〉

日時 八月十日（金）～二十八日（火）

十時半から十六時

（定休日／水・木曜日）



華やかな若き女、恋に悩み・執心する女、失った子への情愛から狂う女、老いさらばえた昔の美女など様々な女の思いをはせていただければ幸いです。

能面解説と謡

日時 八月十九日（日）十四時～十五時

主催 岐阜面游会 阿部景雲



9月

お寺でココロとカラダの秋支度

（夏の疲れを吹き飛ばそう）

日時 九月七日（金）～二十四日（月）

夏の暑さとクーラーによる冷えてずっしりと溜まった疲れ。秋を爽やかに迎える為にも、静かな山寺でココロとカラダを整えてみては？

期間中、専門家によるお話やセルフケアアドバイスを企画しております。※詳細は後日ホームページ等でお知らせします。



*お知らせ

個展・発表会・イベントを法福寺・風庵で行いませんか？

客 殿 一階四十五畳、二階四十五畳、茶室×二間
カフェ併設のスモールギャラリー
駐車場 五十台完備

※詳細はお問い合わせ下さい。お寺の行事の都合で使用できない期間もあります。

LINE@はじめましたー友達登録おねがいします。ID検索 @j m e 5 0 1 7 c

重要な報告

この度、法福寺名誉住職（閑住）が愛知県名古屋市、高野山真言宗八事山興正寺の主監に就任いたしました。



高野山真言宗宗務総長が特任住職を務めておますので、主監は実務担当として実質的に住職と同じ役割を担います。

これに伴い、可見市に昨年開設いたしました「お寺サテライト」はしばらくの間お休みをさせていただきます。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

また、名古屋にお越しの際はお気軽に八事山興正寺にご参拝ください。皆様のお越しをお待ちしております。

詳細は法福寺まで TEL 058438413510

—お寺のある暮らし— 風だより

Vol.136

法福寺季刊広報誌[風だより]
2018年7月00日発行
通巻136号2018年夏季号
高野山真言宗・法福寺
法福寺企画広報
TEL058-384-3510
岐阜県各務原市各務車洞6799-3



静寂に
動を感じ、
写りし影に
真実を見る。

多様化の時代と言われるようになって久しい。生活の中ですべてのものが多様化している。衣食住の多くにわたって色・形・材質・機能、更には品質から価格に至るまで私たちにはさまざまな選択肢が与えられている。現代生活では、多くの中から自らの好みによつてもの方法を選び出すことができるのである。自分の意に沿つたものを生活の中に取り上げ、各自が自分にとつて好ましいと考える生活のスタイルを創り上げることが可能といつてもいいだろう。

住まいにあつても独自の住空間を創り上げることが可能であり、新しい技術の開発は、従来では不可能とされてきたような空間さえもその実現を可能にできた。それは技術面においても資材的な面においてもそれを可能とする難度の高い工法や、建設機材、つまりクレーンや重機などの進化がそれを支えていることは言うまでもない。

東京の根津美術館は、隈研吾氏の設計による現代建築であるが、その屋根の流れの線はとても軽快でのびやか、まるで数寄屋建築を彷彿させる美しさを画いている。もちろん外観の美しさだけで言うならどのようなフォルムも創り出すことは可能であろう。しかし、この建物は多くの重要な美術品を収蔵し、それを展示する美術館である。中に入ればすぐにロビー・ホールを兼ねた大空間がそこに広がる。入館者の多く

は、広々とした空間と巨大なガラス窓を通して臨む和風庭園の美しさに目を奪われ、そこが東京都心の只中にあることさえ忘れてしまうほどである。

言うまでもなく、長いスパンと広い空間を支えるためには太い柱と太い梁を必要とするのであるが、そこで目にする空間には軽快さえ感じられる。外観が数寄屋的な線と見えたのは、3メートル程も延びる軒の深さにもある。しかし、来訪者の多くは外観のみならず内部空間の軽快さとその広がりを目を奪われて、その建物が建築工学的に難度の高いものであるかは回り知る由もない。多くの貴重な文化財を展示・収蔵するに堪える建物としての耐震強度は勿論、都心という立地条件から考えてもさまざまな角度からの安全性が問われる困難な建築工事であつたであろうことは想像に難くない。

では、いったい何ゆえに数寄屋風な意匠に拘つたのであろうか。それを想像してみるに施主である美術館においては、その収蔵品の多くが、東洋・日本の古美術であり



広大な敷地内には4ヶ所の瀟洒な茶室も擁しているという状況からの意図であつたろうことはすぐに想像がつく。建て替え前の美術館建物は木造土蔵造りも含めて日本的建築であつたと記憶している。

10年ほど前にならうか、私もこの新しい美術館の開館式に出席させていただいた。その時、館長である当代の根津嘉一郎氏と設計の隈研吾氏が挨拶の中で、計画から完成に至るまでの経緯を縷々述べておられたのであるが、お二人のこの美術館にかける思いと意図するところがびつたりと合つて

6年もの長い歳月をかけて完成に至らせた確かな理念とその情熱に感じ入ったことを今でも記憶している。その時に強く感じたことは、建築にとつても現代の優れた

製品や技術の中から何を選んでいくかということの前に、自らがどのような考え方で生き方を大切に行っているのか、それを考えることから始まるのだということである。

ともすると多様な選択肢とは、目の前に与えられた多くの中から自分の好みのものを選び出す行為と受け止めがちなのだが、果たして選択するとはそういう受け身の態度でいいのだろうか。目の前のものを多様に捉えるためには、自身が多面的・多角的な視座を持たなければそれが見えてこ

*住職の報告

四月三日(火)～十六日(月)

スリランカ・ダヌカさんファミリー

ー来日ならびにホームステイ

住職の友人であり、法福寺のスリランカ姉妹寺院「ウィディヤナンタピリヴェナ寺」の檀家でもある、ダヌカさんファミリーが来日し、法福寺で二週間のホームステイを行いました。お子様二人に雪を見せたいということで、白川郷へお連れしたり、花見をしたり、歓迎会を行つたりと楽しい二週間を過ごしました。



五月三十日(水)

高野山専修学院第五十四期生同窓会

岐阜市内

恒例の高野山専修学院の同窓会の幹事を今年は私が幹事で岐阜で務めさせて頂きました。人数は八十人中十人程でしたが、同じ釜の飯を食つた辛い修業時代の仲間という事で大いに盛り上がりました。また、同じ僧侶・住職としてお互いの悩みを相談したりと楽しい夜を過ごしました。

ない。つまり多要素で考える知恵が必要ということになる。

家を建てるということは、自らがどのような家庭を築きたいのか、どのような人生を過ごしたいのか、どのような生活態度を理想とするのか、それを築き上げることに他ならない。少し大げさに言うなら、住宅を建てるという行為が自らの理性や感性の具現化だと言つてもいいだろう。こうなると与えられた中から選ぶというような受け身な態度ではもう間に合わなくなる。選択が変わるということは、選択肢が変わるということではなく、選択する自らの態度が変わるということに他ならない。

ホームとは家庭であり、自宅であり、故郷でもある。ホームに対してハウスは、構造物としての家・建物を指す。しかし、昔の人は言つた「家が人間を教育する」と。つまり家によつて人が育てられていくのだというのである。ホームとハウスは、そういう関係性で結ばれている。

家を建てるということは、実際的には構想から実際の工事まで専門の業者に委ねなければできない。つまり家族を育て教育するホームを築き上げるためにどのようなハウスを建築するか、そう考えるとき最も重要な要素は、自らの創造した生活感・家庭観・人生観なりを共感しあえる専門業者との出会いということになろう。

「選択が、変わる」とは、選択肢が変わることではなく、選択する「自らの態度」が変わることであり、共感しあえる人たちが知恵を出し合い、創造していく主体的な態度ではないだろうか。

六月二十六日(火)～二十七日(水)

高野山真言宗東海地区教師研修会参加

三重県鳥羽市 扇芳閣

毎年恒例の研修会です。今年は宗教評論家のひろさちや先生を迎えて行いました。宗教家からの視線ではなく、一般の方からの宗教に対する考え方、目線は新鮮でした。また、八十才を過ぎているとは思えないエネルギーなトークで、三時間の講演はあつという間でした。夜は鳥羽の新鮮な魚介類を頂きながら、東海地区の教師の方々と親睦を深めました。



住職スケジュール*

7月10日	安樂院施餓鬼法要出仕
／岐阜市 伊奈波・安樂院	
7月22日	法華寺施餓鬼法要出仕／岐阜市 法華寺
7月27日	岐阜県真言青年会 悉曇勉強会
／岐阜市 伊奈波・安樂院	
8月6日	法福寺壇役会奉仕の日お盆前境内清掃
／法福寺	
8月8日～15日	お盆棚経
8月15日	真長寺施餓鬼法要出仕／岐阜市 三輪真長寺
8月16日	法福寺お盆供養法要／法福寺
8月20日	開白寺施餓鬼法要出仕／羽島市 開白寺
8月29日～31日	高野山真言宗野球大会／高野山内グラウンド
9月23日	法福寺 秋の彼岸法要／法福寺
9月24日	安樂院法要出仕／岐阜市 善光寺安樂院

*行事のご報告

奉仕の日

三月十八日(日)

春お彼岸前の奉仕の日にあたり、法要前の本堂の仏器磨きを行いました。



各社春の新社員研修実施

四月四日・関信用金庫様／十一名

十日・(株)樋口製作所様／六名

十日・(株)中日研修センター様／十二名

今年には三社の新社員研修を行いました。座禅や読経、写経などを通じて新社会人としての心の有り方を学んで頂きました。

